

## 議事録（要旨）

会議の名称	平成30年度第2回羽曳野市障害者施策推進審議会
開催日時	平成31年2月21日（木）午後1時45分～午後3時30分
会場	保健センター4階大会議室
出席状況	出席 畑会長、松村委員、明石委員、國分委員、池谷委員、麻野委員、塩野委員、真銅委員、石本委員、石橋委員、奥村委員、谷口委員、佐野委員、水谷委員、小倉委員、森本委員 以上16名
	欠席 淵岡副会長、調子委員、比奈本委員、北山委員、丸橋オブザーバー 以上5名
会議次第	1. 委嘱状交付（松村委員） 2. 市長挨拶 <審議> 3. 第5期羽曳野市障害福祉計画および第1期羽曳野市障害児福祉計画における成果目標・見込量と実績について 4. その他
資料一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5期羽曳野市障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画における成果目標・見込量と実績【事前資料1-1】</li> <li>・ 障害者施策推進審議会委員名簿（平成30年10月3日現在）【当日資料1】</li> <li>・ 委員の質問・意見への回答【当日資料2】</li> <li>・ 配席図</li> </ul>
事務局	保健福祉部障害福祉課
会議経過	
<p><b>【開会】</b></p> <p>1. 委嘱状交付</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>&lt;審議&gt;</p> <p>3. 第5期羽曳野市障害福祉計画および第1期羽曳野市障害児福祉計画における成果目標・見込量と実績について</p> <p>○【事前資料1-1】「第5期羽曳野市障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画における成果目標・見込量と実績」に基づいて事務局から説明</p> <p>（会長）</p> <p>説明の中でふれあいネット雅びについて触れられたが、委員の中でふれあいネット雅びに携わっている方に補足説明をお願いしたい。</p>	

(委員)

ふれあいネット雅びについては東、中、西エリアがある。障害関係事業所でも各エリアで体制をとり参加することにより、少し動いた状況がある。今後、どうなっていくのかが課題のひとつである。高齢者や地域の方も含めイベントや学習会などを行っている。

事業所としても通常業務を行っている中での取り組みということもあり、ふれあいネット雅びという組織として今後どのように継続していくのかは課題である。

(会長)

ふれあいネット雅びは、地域のネットワークとして今後、地域共生社会の核となる組織であるため、組織としてどう動いていけるかを検討してもらえればと思う。

(委員)

現行計画の課題として、支援している家族の高齢化、本人の高齢化が問題になっている。

担い手不足が深刻化する中、福祉スピリットを抱いて仕事に就いた若い人たちが情熱を失うことなく、定着してもらえるよう具体的な取り組みとして、どのような働きかけができるのか。

(会長)

羽曳野市だけではなく全国的なことではあると思うがどうか。

(事務局)

羽曳野市独自の働きかけというのは難しい。

自立支援推進会議の中で各サービス事業所の従業員の交流や学習を通じてスキルアップややりがいを醸成していく取り組みがあるだろうと思われる。

従業員の仕事と併せて、生活を成り立たせるために人件費をどう確保するかが課題になっている。

高齢介護も含め、介護従事者に特化した人件費の改善として、処遇改善加算をつくってきたのは国の取り組みのひとつである。

また、来年度に向けて主任や管理責任者レベルの月収を上げる改善措置を図るとのこと、そこに必要な公費をどれだけつぎ込めるかが国全体の課題だと考える。

(委員)

市独自では難しいと思う。

担い手不足の問題は国、府と連携して取り組む課題として挙げられている。

みなさまの意見を伺いながら、また、府へ上申しなければ改善等に繋がらないこともあると思うので、議会としてやるべきことがあれば、私どもも取り組みをさせてもらう。

(委員)

事前質問の回答から、障害児の計画相談についてはセルフプランも考えていかなければならないとなっている。

対象者の増加もあり、障害者についてもセルフプランも取り入れながら、必要な方は計画相談で丁寧に進めていく必要があると思う。

相談支援専門員、相談事業所の増加、担い手の養成や確保となると報酬の問題になる。

報酬改正では基本報酬が減り、加算が増える形になっている。加算を取るためには多くの相談支援専門員が必要で、小さな事業所は立ち行かない。

他市でも計画相談事業所を開設したが、運営できなくなり辞めてしまう事業所もあると聞く。その部分も考えていかなければならない。

移動支援の入所施設利用者の利用に関して、実際に反映が見えてこないのではどのようになっているのか。

古市百舌古墳群を盛り上げていくということで、そのグッズの作成や販売などを通じ、工賃向上のためにも優先調達法を利用して、障害者の事業所が市の事業とジョイントを組めるようなことを考えていただければと思う。

(委員)

放課後等デイサービスの事業所の勉強会の中で、質の向上を目指すという意味でも、学校との連携は欠かせないので教育委員会の方と話し合いの場ができればと思う。

(事務局)

入所施設者の移動支援の利用については、認めていく方向で調整している。具体的な内容が決めれば説明させていただく。

(会長)

教育委員会としては、意見があったとして検討事項としていただきたい。利用者の工賃向上に関しては古市百舌古墳群のグッズの製作、製造に積極的に事業所を使っていただきたいという提案の検討をお願いしたい。

#### 4. その他

○手話言語条例の制定について事務局より説明。

(会長)

条例制定がスタートとなり、その後、進展していくことを切に願う。

【閉会】